

基本的な感染対策のお願い

令和5年7月7日
健康福祉部感染症対策課

1 感染症の発生状況

県内において、

- ① 新型コロナウイルス感染症は継続して増加傾向です。
加えて、
- ② 子どもが夏にかかりやすい「ヘルパンギーナ」、
- ③ 主に秋から初冬にかけて流行する「RSウイルス感染症」の急激な増加が見られます。

(定点あたりの人数)

	今週 (6/26~7/2)	1週間前 (6/19~/25)	2週間前 (6/12~6/18)	(参考) 過去5年の 本県最高値
①新型コロナウイルス感染症	5.91	4.75	4.13	2022.11.21-27 48.52
②ヘルパンギーナ	7.85	3.74	1.80	2018.7.30-8.5 9.89
③RSウイルス感染症	2.31	1.26	1.39	2021.9.6-12 5.91

※ヘルパンギーナ : 警報レベル(定点当たり6.0人以上)、注意報レベル(基準なし)
RSウイルス感染症: 警報レベル、注意報レベルの基準なし

2 感染拡大の要因

- 「ヘルパンギーナ」、「RSウイルス感染症」が例年より早い時期から感染拡大している要因としては、
 - 新型コロナの5類移行に伴い、感染対策が個人の判断に委ねられたことや人との接触機会が増加したこと
 - 新型コロナの感染対策により、これまで流行が抑えられていたことから、抵抗力(免疫)を持っている子どもが少ないこと 等が考えられます。

3 基本的な感染対策のお願い

- これらの感染症は、飛沫や接触などにより感染しますので、新型コロナ対策で実施してきた感染対策が有効です。
- これから夏に向け、更なる感染拡大が懸念されます。
これら感染症の感染拡大を防止するためにも、「石けんと流水による手洗い」、「こまめな換気」、「咳エチケット」など、基本的な感染対策にご協力をお願いします。

新型コロナウイルス感染症(COVID-19) 長野県内の状況

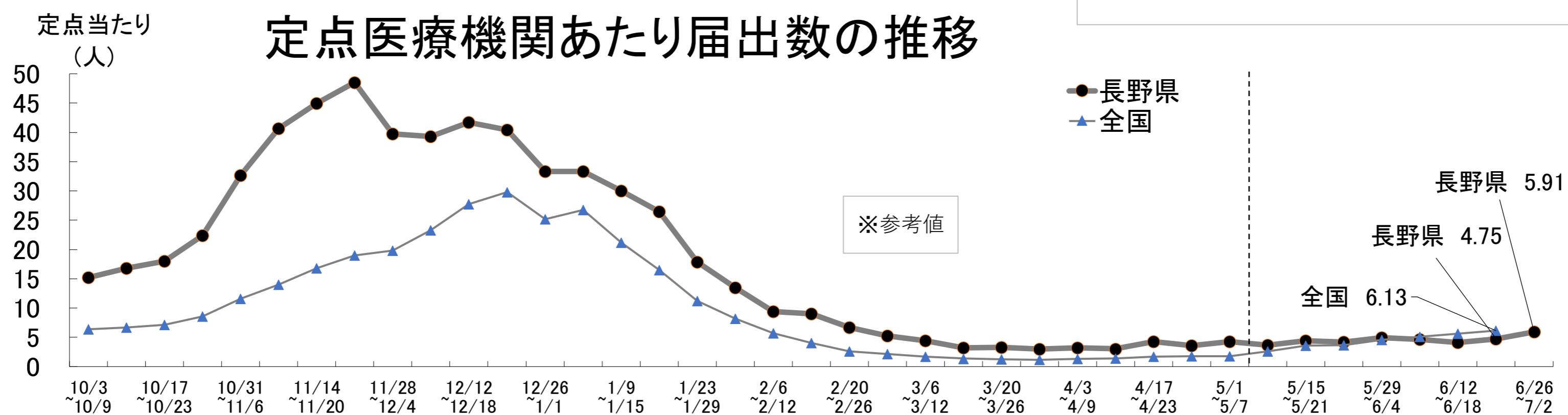
【第26週:2023年6月26日 ~ 2023年7月2日】

※下記のデータは指定届出機関(定点医療機関)からの届出をもとに集計した速報値です。

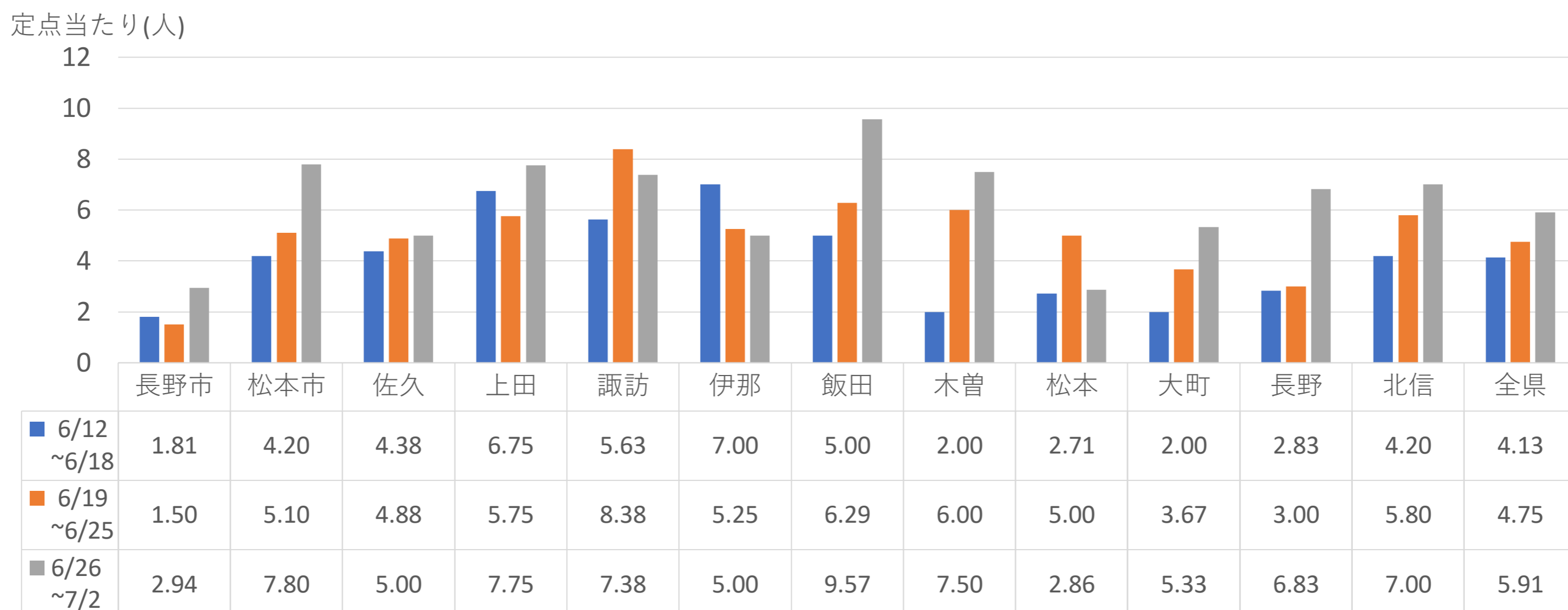
1. 全県の状況

6月26日~7月2日		6月19日~6月25日		前週との比較	
届出数	520 人	届出数	418 人	届出数	102 人
定点あたり	5.91 人	定点あたり	4.75 人	定点あたり	1.16 人

5/7以前のデータについては厚生労働省算出の数値を掲載
第26週の全国の定点医療機関あたり届出数は、7月7日(金)に公表予定



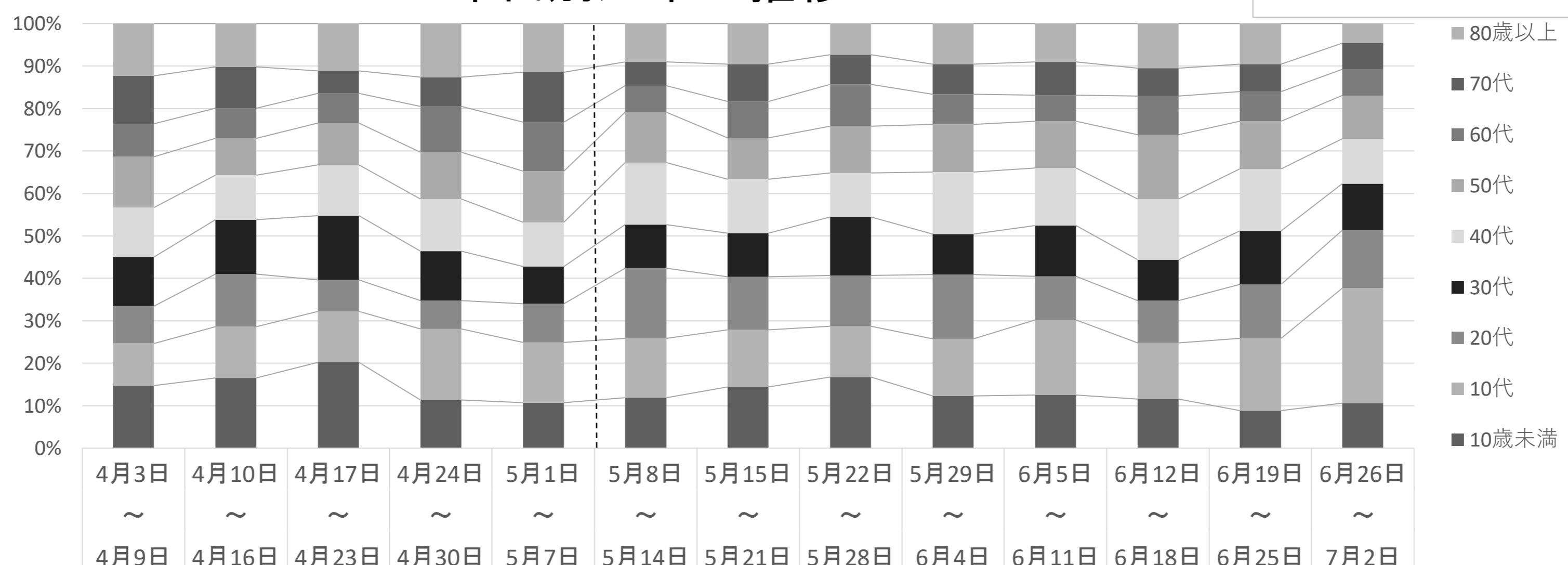
2. 地区別定点医療機関あたりの届出数



3. 年代別の状況

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	計
6月12日~6月18日	42	48	36	35	52	55	33	24	38	363
6月19日~6月25日	37	71	53	53	61	47	29	27	40	418
6月26日~7月2日	55	141	71	57	55	53	32	32	24	520
累計(令和5年5月8日以降)	395	532	413	360	421	366	239	224	274	3,224

年代別比率の推移



5/7以前のデータについては厚生労働省算出の数値を掲載

ヘルパンギーナ・RSウイルス感染症に 注意しましょう！

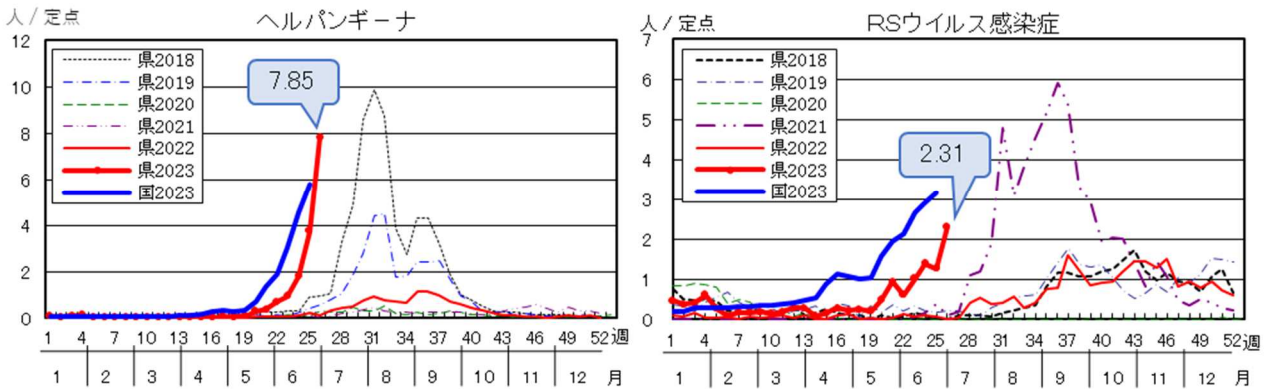
令和5年7月5日
長野県健康福祉部感染症対策課

夏に小児がかかりやすい感染症である「ヘルパンギーナ」と、主に秋から初冬にかけて乳幼児の間で流行する「RSウイルス感染症」の報告数が急激に増加しています。

今後、さらなる感染の拡大が懸念されますので注意しましょう。

《長野県内における発生状況》

県内の小児科定点医療機関（54か所）から、6月26日～7月2日（第26週）に報告された「ヘルパンギーナ」の報告数は定点あたり7.85人で、流行警報レベルの基準値6.0人を超えています。また、「RSウイルス感染症」は2.31人となっており、「ヘルパンギーナ」、「RSウイルス感染症」ともに例年より早い時期での流行が見られます。



《ヘルパンギーナとRSウイルス感染症の特徴》

	ヘルパンギーナ	RSウイルス感染症
主な症状	急な高熱、咽頭痛、口の中にできる1～2mmの小水ぼう、食欲不振、全身倦怠感など	発熱、鼻汁、咳、咽頭痛など(風邪様症状) 細気管支炎、肺炎など重症化する場合もある
原因となる病原体	コクサッキーウイルスなど	RSウイルス
感染経路	飛沫感染、接触感染、糞口感染	飛沫感染、接触感染
潜伏期間	2～4日	4～6日
その他	症状が治まった後も患者の便には3～4週間程度ウイルスが排泄されるので注意 脱水症状にならないように、水分をしっかりと取りましょう	乳児期早期(生後数週間から数ヶ月間)に初感染した場合は重症化しやすいので注意

※「ヘルパンギーナ」は、「手足口病」、「咽頭結膜熱」とあわせて夏に小児がかかりやすい「夏かぜ」と呼ばれるものです。

感染予防のポイント

- 石けんと流水による手洗いをしっかりと行いましょう。
- 集団生活ではタオルの共用は避けましょう。
- おむつの交換などは、排泄物を適切に処理し、しっかりと手洗いをしましょう。
- 咳などの症状がある場合は咳エチケットを心がけましょう。